# CMSC JOURNAL Vol.8

## 北海道'85ノースアタック300表彰式

今シーズン初優勝、さらにシリーズチャンピオン最右翼の羽豆選手（左）！

「まあ、こんなものですよ」といいながらも、後半戦波に乗ってきた藤田選手（左）

## '85JAF全日本ラリー選手権 第8戦

北海道 ノースアタック300：7月20日(土)～21日(日)

羽豆／田口組 **優勝、** 山内／山口組 **2位、**

CMSC福島 藤田／吉田組 **6位、**

## '85JAF全日本ラリー選手権 第9戦

岩手県 栗駒山アルペンラリー：8月24日(土)～25日(日)

CMSC青森 館山／永沢組 **4位、** 山内／山口組 **2位、** 大庭／小田切組 **3位、** CMSC青森 福士／安田組 **5位、**

3位とわずか1ポイント差！惜しかった館山選手（右）

栗駒山の各SSを攻めに攻めた、福士選手（右）

## '85JAF全日本ラリー選手権――レポートfromナビゲーターズシート

# チャンピオンを目指してラストスパート！

6月29日午前4時30分、目覚ましの音に驚いて起床。"なんでこんな時間に目覚ましをセットしたのかな？" とボケた頭で考える。"そうだ、6時の新幹線で盛岡へ行くんだ"。あわてて仕度をととのえて、上野へ向けて急いだ。だいたい、つい10日程前に "地獄のマレーシア" から帰ったばかりで、悪夢まださめやらずの心境にあるうえに、昨日は出張で家に帰ったのは12時頃。まあしようがない新幹線の中で寝るかと覚悟を決めて、そのとおり、目がさめたら "次は盛岡" のアナウンスが聞こえていた。

### 三菱勢の活躍が期待された第7戦"ツールド東北"

第7戦ツールド東北。スタート地点のマッハランドに着くと、いつものスタート地点の光景、しかしマレーシアに行っていて、先日の九州を欠席しているのでなんだか、久し振りの国内ラリーという感じがして、変な気持ち。

"3時にスタート、夜の3時にはゴールして、ゆっくり休んでから帰ってもらいます" と藤村競技長の説明がドラミであり、ラリーでは初めてのドクターチェックを女医さんから受けて、いよいよスタート。早速ハイアペレージで走り始める。浮砂利は多いが、道幅も広く、楽にオンタイムペース。しかし、あのマレーシアでの悪夢のミスコース後遺症が残っていて、コース図ばかりが気になる。ふと目を上げると、コンピュータのファイナルは、+30秒、あわてて補正を入れて、それでも+15秒。"落とせ" と言ったら、目の前には無情にもCPが見えて、オフィシャルが "おいで、おいで" をしている。仕方なく、CPイン。結果、17秒の早着だった。しかし、これでやっといつものペースに戻れて、以後はマイペース。

第1ステージを終えて、トップとは23秒差、やはり早着分が大きい。気をとり直して、第2ステージスタート。なんとか、1ステの分をとり戻さなくてはと、羽豆ドライバーも張りきっている。しかし、2ステ中盤、ゆるい右コーナーを3速全開で、まわったところ、コーナー後半がきつく、"アッ！" と思った時はすでに遅く、テールからコースアウト!!

前⅓をコースに残して、お尻がずり落ちた格好になってとまった。急いで降りて押したが、亀の子になっていて、ビクともしない。あきらめようかとも思ったが、マレーシアのこともある。NEVER GIVE UP。近くから石を拾ってきたり、ジャッキアップしたりと、悪戦苦闘すること30分。ついに、追い上げが来た。あきらめてリタイア届けを出す。追い上げ車に引っ張ってもらうとあっけなく脱出でき、あの30分がうそのようであった。"リタイアはしたけど、自力で帰ってきたから、お弁当をあげるよ" と変ななぐさめを石黒監督からもらい、その後さびしくゴール地点へ向う。ゆっくりと寝て、目が覚めると結果、神岡Zの2連勝だった。まあ仕方ない。今年のジンクスからいっても、今回はリタイアの順番だから、次回の北海道が勝負！と強がりを言って盛岡を後にした。しかし、どうも東北はついていない。羽豆との初めての東北は、転落リタイヤ。去年の栗駒もいいとこなし。まあ、第9戦の栗駒こそ！

あっというまに時間はたち、7月19日、半年ぶりの北海道。今年の北海道はけっこう暑いな、というのが第一印象。苫小牧泊りでは、やることもなく早目に寝て明日にそなえる。今回勝たねばどこで勝つ。という覚悟である???

### スタリオン、ワン・ツー圧勝！第8戦"ノースアタック300"

第8戦ノースアタック300。いつもの大和ルスツ高原、4年目である。1年目、まだJAF戦になるまえのチボー、羽豆にとっては3連勝を挙げたものの、'83、'84とJAF戦になってからはいいとこなし。本当に今年こそとの思いが強い。

コースはだいたい、いつも通り。初めてのコースが昼間のギャラリーステージである中山峠旧道、約10kmのコース。いつもながら、羽豆選手、スタート直後はなんとなくペースが上がらず横で見ていても "遅いナー"。トップの伸弥選手に14秒も差をつけられてしまった。この差が最後までたたらなければいいのだが、との思いがチラッと頭をよぎる。ラリー区間第1ステージのスタートは7時1分。

このステージコースは羽豆の得意コース。ここで頑張ってトップに出なくては、と思いつつスタート。まあなんとか無難にこなして、このステージをトップであがりサービスへ戻る。1ステ終了時点ではなんと伸弥、羽豆、大庭選手が1・2・3位。伸弥と羽豆の差は4秒。よし、あとは我らが1位となってADVANの1・2・3位を狙おう、などと虫のいい考えを起して2ステスタート。道とは思えない豊浦旧道、一昨年の痛恨のコースアウトの川渡りコース等を経てゴール、伸弥選手をなんとか逆転した。しかし、大庭選手が大岸コーナーの次の急コーナーでコースアウトしたとの事。惜しい。ラストの3ステはSSのみ。コースも良くわかっているとのことなので無理をせず、このポジションをキープするように作戦変更。やっとゴール、念願の北海道でのJAF戦今シリーズ初優勝。

### スタリオン、コルディア4WD、ランサーが2～5位を独占！第9戦"栗駒山アルペンラリー"

次は又東北での第9戦栗駒山アルペンラリー。ゼッケンを聞くと2番、"ああまた砂利かきか！" との思いがまず頭に浮かぶ。それに順番からいくと又 "リタイア" の番だし、本当に東北はついてなさそうだ！コースはここ2週間程、まったく雨が降っていないとの事で、ホコリと砂利に悩まされそうだ。

ゼッケン1～10はここまでのポイント順ということで、誠、羽豆、神岡、ゴーチンの順である。伸弥は、シードドライバーの特権を生かして27番、いいポジションである。それに上坂選手も31番と絶好の位置にいる。初めてのコースの1CPこそ、とくにホコリもなく走れたものの、次からは誠選手のホコリと砂利に悩まされる。神岡選手もスタリオンのホコリの後では調子が出ないようだ。もっともその後のゴーチンいわく "スタリオンとZの後ろを走ってみい" とのことであるが、勝負所の国見平の下り、ホコリに気をとられて気がついたら、コーナーは目の前。あっという間もなく、左半分が路肩へ！運良く、すぐそばにギャラリーがいたので手伝ってもらってコース復帰。もっとも10分以上のロスタイム。下のCPにはCMSC岩手のメンバーが佐々木氏以下オフィシャルとしていて、我らの遅れを心配してくれていた。もう成績には関係ない、しかし、リタイヤだけはしたくない、なんとか今年のジンクスを止めなければとの思いのみで、残りのコースを走る。上坂選手は運良く、前の3台が1ステ半ばでリタイヤ。伸弥選手の4分後、ホコリのないクリアな中で走っていて絶好調。

1ステを終って戻ると、上坂、堀田、伸弥、館山選手が上位の模様。冬だけでなく、ダートでも早いことを実証しようと館山選手がコルディア4WDで頑張っている。同じく青森の福士選手も好調。今日のCMSC青森勢、大西選手も含め快調。その原因は？と聞くと、？氏が来ていないからとのことでしたヨ！　1ステの逆走が2ステ、2ステの後半が3ステとほとんど同じコースで残りのラリーは進み、2ステ、3ステを伸弥選手がトップで上がる追い上げをみせたものの、上坂選手のホコリ無し走法におよばず2位、3位は昨年の覇者大庭選手、そして4位は1秒差でコルディア4WDの館山選手、さらに5位は福士選手のランサーと2～5位をスタリオン、コルディア、ランサーが独占した結果に終った。

さあ残すところ2戦！　次回は "群馬県人会のラリー" モントレー。もっとも今年は初めて使う国有林道があるとかなので、もしかしたらとの期待もある。スタリオンのチャンプ獲得目指して、ラストスパート!!

（CMSC本部　田口雅生）